

OECD 国際学力調査が 教育政策に及ぼすインパクト

篠原 真子 氏 (国立教育政策研究所国際研究・協力部・総括研究官)

講演概要

OECD の国際学力調査は、中等教育段階で PISA として先行的に実施され、日本を含めた各国の教育政策に少なからぬ影響を与えている。現在、高等教育段階でも同様の学力調査 AHELO の実施に向けた動きが進められている。PISA がなぜ、いかなるプロセスを経て計画・実施されたのか、各国の教育政策にどのような影響を与えているのか、PISA2012 年調査 (2013 年 12 月に結果公表) が実際にどのように行われたのかを明らかにする。あわせて、調査結果からみた日本の教育の特徴・課題や 21 世紀に必要とされる能力について検討する。

2014 年 3 月 5 日 (水) 16:00 – 18:00

場所：名古屋大学 東山キャンパス 文系総合館 7F オープンホール

お問合せ先：info@cshe.nagoya-u.ac.jp Tel: 052-789-5696

ご参加いただける方は、事前に上記メールアドレスまでご一報いただくと助かります。
会場準備の都合によるものですので、必須ではありません。